

## 平成24年度放射線安全取扱部会年次大会 (第53回放射線管理研修会)のお知らせ(4)

### 平成24年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成24年度放射線安全取扱部会年次大会は、中国・四国支部が担当し準備を進めており、松山市で開催します。昨年は、東北支部が担当され、東日本大震災の影響を受けた中で大変すばらしい年次大会を開催されました。それを受けて、私たちはどのような大会とすべきかを実行委員会の中で検討しています。主任者本来の業務に関する事、主任者が関係する施設の充実化に関する事、そして東京電力(株)福島第一原子力発電所事故への対応をどのようにバランスをとるかが大変重要となります。このことは正に日本アイソトープ協会が公益法人化されたこととも関係します。この公益法人化を受けて私たちの放射線取扱主任者部会は、4月より放射線安全取扱部会に名称が変更されました。これまでは私たち主任者のための部会でしたが、私たちが公益のために何ができるのかも考える部会となりました。

今回の大会でも様々な内容を取り扱いますが、福島原子力発電所事故への対応は依然重要です。既に私たち主任者は、それぞれ何らかの方法で福島第一原子力発電所事故に対応してきました。そのような私たちの思いと呼応することから、坂村<sup>しんみん</sup>真民の詩の中から「念ずれば花ひらく」をメインテーマとしました。坂村真民は熊本県で生まれ、愛媛県で高校の国語教員をしながら詩を作り続けてきました。恵まれた子供時代を過ごせませんでした、そのような中で教師になり、前記のような言葉が生まれまし

た。「念ずれば花ひらく」のは、個人の思いなのか、それが集まったものなのかは分かりません。ただ私たちは、この年次大会で部会として力が結集できるよう、準備を進めています。なおこの文言の使用は、実行委員のメンバーから坂村真民記念館に申し出て、許可をいただいております。

#### 年次大会概要

- 開催日：平成24年11月8日(木)、9日(金)
- 会場：松山市総合コミュニティセンター  
松山市湊町7-5  
(JR松山駅より徒歩10分)
- メインテーマ：念ずれば花ひらく

#### プログラム概要(予定)

##### 【11月8日(木)】(1日目)

- 9:00～ 参加受付
- 10:00～11:00 開会・部会総会
- 11:00～12:00 特別講演 I 「放射線安全行政関連」  
(文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室)
- 12:00～14:00 休憩  
ポスター発表・相談コーナー
- 14:00～15:15 シンポジウム1「福島原子力発電所事故からの復興1」
- 15:15～16:30 シンポジウム2「福島原子力発電所事故からの復興2」

## 主任者 コーナー

- 16:45～17:45 特別講演Ⅱ  
西澤孝一氏（坂村真民記念館館長）
- 18:00～20:00 交流会
- 【11月9日(金)】(2日目)
- 9:00～ 参加受付
- 9:30～10:30 特別講演Ⅲ「福島原子力発電所事故後の放射線教育の必要性に関して」(仮題)  
有馬朗人氏（日本アイソトープ協会会長）
- 10:30～12:00 シンポジウム3「一般の方への放射線教育」
- 13:15～14:30 シンポジウム4「分子イメージング」
- 14:30～15:00 次回大会紹介，アピール採択，閉会  
(機器展示及びポスター展示は両日とも行います。)

特別講演Ⅰでは、放射線規制室に「放射線安全行政関連」の講演をお願いしています。特別講演Ⅱでは、坂村真民記念館館長の西澤孝一氏に講演をお願いしています。復興には様々な観点からの復興があります。医療の観点からの復興、環境の復興などがありますが、本講演では心の復興を中心にお話し願えると思います。特別講演Ⅲでは、日本アイソトープ協会会長の有馬朗人氏から福島原子力発電所事故後の放射線教育の必要性に関してお話しいただきます。放射線教育の必要性に関して、おそらくこれまでは、地球の温暖化等を考慮して火力ではなく原子力という観点から説明されてきたと思います。しかしながら昨年の福島原子力発電所事故を受けて、その必要性は変わってきたと考えています。この観点から講演をお願いしております。

シンポジウムは、放射線管理に携わっている我々が直面している様々な最新的话题を取り上げる予定です。福島第一原子力発電所の事故を受けて、忙しい方も多いと思います。このことは前大会での主要なテーマでした。本大会のシンポジウムでもここから離れることはできません。その中で私たちは特に“復興”をキーワードとして、シンポジウム1, 2「福島原子力発電所事故からの復興1, 2」を計画しています。また、事故対応の一環として、一般の方への放射線に関する説明で忙しい方もおられます。前大会でのシンポジウムでは放射線業務従事者に対する教育訓練も取り上げられましたが、本大会では一般の方への教育も重要なテーマと考えております。学習指導要領が改訂され、中学校では約30年ぶりに理科でエネルギー資源の一環として放射線の性質やその利用について学習指導を行うことになりました。放射線について初めて教える先生方も多いと考えられ、先生方への支援も私たちができることです。このように放射線事業所の安全管理にとどまらず、事業所の外での専門家としての対応に関係した内容を盛り込んだ「一般の方への放射線教育」のシンポジウムを計画しています。最後のシンポジウムは、私たちの放射線施設の未来を考えるシンポジウムとしたいと考えています。非密封放射性同位元素の使用量が減り、廃止を考えておられる施設があるかもしれません。そのような状況の中、「分子イメージング」は私たちの未来を切り開くものになるかもしれません。この「分子イメージング」のシンポジウムも計画しています。

### ポスター発表の募集

日頃、放射線管理等の実務を担当されている方の情報交換の場として、今回もポスター発表を募集します。放射線施設での施設維持管理の

新しいアイデア、放射線利用、事業所紹介、福島支援活動や支部活動など多くの方の参加を期待しています。なお、申込みは、表題、発表責任者氏名・連絡先を明記の上、期限までに事務局あてにお願いします。

○申込期限：8月15日(水)

○要旨提出期限：9月3日(月)

○発表要旨の原稿作成要領：

A4判縦で図表を含めて2枚以内で作成ください。書式は1行36文字、1ページ35行、文字の大きさは12ポイント、余白は上下左右ともに30mmとします。要旨原稿は図表も含めてワープロ原稿として、事務局にE-mailで送信ください。

#### 【連絡先】

○放射線安全取扱部会事務局

日本アイソトープ協会学術・出版課

☎113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45

☎03-5395-8081 FAX03-5395-8053

E-mail [gakujutsu@jrias.or.jp](mailto:gakujutsu@jrias.or.jp)

#### 相談コーナー

日頃の放射線管理業務での疑問や困りごとなどについて、ご相談をお受けします。相談員には法令検討委員会や各支部のベテランの方にお願ひする予定です。

#### 交流会

交流会は大会会場である松山市総合コミュニティセンター内で開催します。参加された皆様との交流を深める絶好の機会です。多くの方の参

加をお待ちしております。

#### その他

前記のプログラムのほか、機器展示や書籍コーナーを設ける予定です。

#### ようこそ松山市へ

松山市へは、札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、鹿児島から航空機を利用できます。もちろん、各地からJR、バス、船も利用できます。会場はJR松山駅の近くに位置しており、松山市内にはビジネスホテルが多数あります。

会員の皆様はこの年次大会やほかの学会等に参加されていることと思います。当然それぞれの会場で発表し、そして最新の情報を得るのが目的ですが、それと同時にその街を楽しまれていると思います。松山市で開催するのは、もちろん昼間は会場で情報収集し、議論していただきますが、夜や大会終了後は穏やかな瀬戸内の秋も楽しんでいただき、休養をとっていただきたいという思いもあります。松山市では、瀬戸内の味が楽しめます。松山城、道後温泉、正岡子規、坊ちゃん、坂の上の雲など、歴史と文化にも触れられます。是非、この機会に松山市を楽しんでください。

大会のホームページを作成しました。大会の詳細をはじめ、有用な情報を順次掲載していきますので、随時、下記のホームページをチェックしてください。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jria2012/>

多くの方の参加をお待ちしています。